

名古屋市科学館における「地質の日」記念イベント ～親子化石レプリカづくり

緒方 秀充¹⁾・加藤 法寛²⁾・柴田 和博³⁾・正木 智人⁴⁾・西本 昌司⁵⁾

1. はじめに

平成20年5月10日, この日「地質の日」が我が国で初めて施行されたが, 折しも名古屋市科学館では特別展「世界最大の翼竜展」(朝日新聞社など共催: 朝日新聞社, 2008)を開催中であった。ちょうど, 産総研・地質調査総合センター監修による「化石レプリカチョコ」の発売になるタイミングでもあり, 「親子化石レプリカづくりワークショップ」を, 数々の翼竜標本が見える展示会場内において実施した。本行事は, 科学館, マスコミ, 教員, 市民団体が連携して行った実例であり, これを今後の普及行事展開例として読者にご参考にしていただければ幸いである。

2. 実施方法

特別展「世界最大の翼竜展」会場内にワークショッ

プコーナーを設定し, 午前10時から午後4時まで毎時入れ替え方式で実施した。対象は, 各回親子10組とし, 各回の参加券を特別展会場入口で販売した。材料コスト, 混乱予防, 会場内の物販や音声ガイドなどの料金などとのバランスを考慮し, 参加費として1組(2名)500円を徴収した。参加費徴収や入場整理などの運営面は特別展事務局スタッフで対応していただいた。

ワークショップでは, まず, “化石がどのようにしてできるのか?”を, 低学年児童でも分かるように紙芝居を用いて説明した。そして, さらに“化石から何がわかるのか?”を解説した後, 化石レプリカの重要性について解説した。その中で, 講師が数十年前に初めて瑞浪で採集した貝化石を紹介し, 化石採集がどれほど魅力的で面白いかを伝えた。

実際の化石レプリカづくりは, 油粘土で型取りさせ, 石膏を流しこむ方法で行った。油粘土で型をと



写真1 親子化石レプリカづくりの様子。



写真2 いっしょに石膏を流し込む親子。

- 1) 豊田市立旭中学校
- 2) 豊田市立松平中学校
- 3) 大日本図書(株)
- 4) 豊田市立畝部小学校
- 5) 名古屋市科学館

460-0008 愛知県名古屋市中区栄二丁目17番1号

キーワード: 名古屋市科学館, 「地質の日」記念イベント, 親子化石レプリカづくり

る方法は、専門的な方法である寒天印象材(商品名:コピック)を用いたものと比較すると粗くなる。しかし、油粘土は化石に押し当てれば何度も型を作ることが可能であり、しかも自分の手で粘土をこねるといった体験もできるため、自分の手で作ったという実感が味わえる。何かをこねるといった実体験が乏しい現代の子供達にとってこの種の体験は重要であると考え、私たちは油粘土を用いる方法を採用している。そして、化石標本として、三葉虫、アンモナイト、サメの歯を準備し、各自の好きなものを自由に選ばせた(写真1, 2)。

3. 実施結果

我々の予定を上回り、各回とも満員となり、のべ参加者数は140名に達した。参加券の販売は、開催時刻の1時間前より行ったが、毎回列ができるほどの好評ぶりであり、とくに午前中に顕著であった。当日の特別展来場者数は1,934名であったので、その7.2%がこの行事に参加したことになる。

ワークショップでは化石レプリカを作ると同時に、油粘土や石こう、カップなどを一まとめにした化石レプリカ作成セットをプレゼントした。こうすることで、夏休みの自由研究などで、家庭でもレプリカを作ってくれることを我々は期待したからである。なお、当日の天候は雨天のためレプリカの乾きが悪く、小一時間では油粘土の型から石膏を剥がすところまで達成できない子供が多く見受けられた。このようなケースの場合、彼らには特別に作成キットの中に入れて持ち帰って頂いた。恐らく、帰宅後の夕食時に、ドキドキしながら型からレプリカを剥がしたことだろう。各回、最後に化石レプリカチョコレート(PRとともにレプリカ作成の意義を解説し、ワークショップを終了した。

4. 地質学の普及に向けて

一般の地質学への関心が薄れていることは関係者誰もが感じていることであろう。「地質の日」制定により、このような普及行事が全国で実施するきっかけになることは、地質学の普及啓発に有効と思われる。

今回、特別展会場内でワークショップを実施してみて、特別行事の関連事業としてマスコミと連携することでPR効果は格段にあがると感じる。マスコミと連携する上で、「地質の日」は行事の意味づけによる話題性・ニュース性をつくりだせることで意義深い。また、事業運営のプロ(イベント運営会社)と実施することで、講師はワークショップ自体の遂行や子供らの指導に集中しやすくなる。実際、60分ごとのワークショップの中で要点を押さえた無駄のない説明をすることができ、製作に時間をかけることができた。結果的に、学校等で実施する場合よりも参加者へのケアを行き届かせることができた。このように、特別展と連携して「地質の日」行事を実施することは地質学普及の点から効果的と言えるであろう。

化石レプリカづくりは、化石に関心がある人たちだけでなく多くの人が興味をもてる人気のある体験である。それに、レプリカや古生物学の意義が、分かるはずもない低学年児童にもぜひともこういう印象に残る体験をさせたいものである。数年後に化石の学習をしたときに、レプリカ作りの体験を思い出し、地質の学習に一層の興味をもつかもされない。特別展会場内での実施は、展示物を見るだけに終わらず、学芸員や講師とのコミュニケーションを通じて長期的記憶に残る博物館体験(J.H.フォークほか、1996)となると信じている。

謝辞: 本行事を開催するにあたり、朝日新聞社文化事業部の田村 慎氏、同名古屋本社企画事業チームの小倉利一氏、ランドマークプロダクツの田村洋三氏をはじめ「世界最大の翼竜展」名古屋運営事務局のスタッフにはお世話になった。ここに記してお礼申し上げる。

文 献

朝日新聞社(2008):世界最大の翼竜展カタログ。
J.H.フォーク, L.D.ディアーキング, 高橋潤一訳(1996):博物館体験～学芸員のための視点～, 雄山閣出版。

OGATA Hidemitsu, KATO Norihiro, SHIBATA Kazuhiro, MASAKI Norito and NISHIMOTO Shoji (2009): Making of fossil replica for family on Geology Day at Nagoya City Science Museum.

<受付: 2008年11月26日>